

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

# よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.44 2011.4.15



## 福まち通信

菊水福祉のまち推進センター運営委員会  
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10  
電話 011-887-7006 FAX011-887-7006  
URL <http://kikusui-net.jp>



陽光に輝く福寿草

菊水3条3丁目松山宅前庭にて  
2011.4.5 撮影

## 菊水地区介護予防調整会議

地区社会福祉協議会、地区民生・児童委員協議会、福祉のまち推進センター、菊水地区まちづくりセンターなどから15名の関係者が参加しました。

この会議は年に一度、介護予防センターが主催となり、「地域における介護予防の普及・啓発」や「地域での介護予防活動について」、地域の関係団体・関係機関のみなさんと一緒に考えていく会議です。**今年のテーマは『菊水地域における介護予防活動と地域連携』**で、地域の状況や各機関の取り組みなど活発な意見交換がなされました。  
(次ページに続く)

3月3日、「菊水地区介護予防調整会議」が菊水地区会館で開催され、菊水連合町内会、



介護予防センターの皆さん（写真は去年のものを使用）





ある日のすこやか倶楽部（上町会館）

後期高齢者と一人暮らし高齢者が増え続けている菊水地域において、町内会をはじめ、各関係機関との連携や見守り活動の大切さが報告されました。昨年行われた民生・児童委員協議会との懇談会は「地域連携の立場から今年もぜひ実施したい」との発言や、「高齢者のふれあい交流会」の取り組みについても「今まで参加されていない方々の参加をめざし、組織の枠を超えて取り組みたい」など、積極的な意見が多数提案されました。お年寄りが安心して暮らせる菊水地区を目標に、介護予防活動でも地域の関係機関、関係団体の皆さんとの連携・協力を基本として活動する事を確認する会議となりました。

（記事は「介護予防センターきくすい」の菊地さんを書いてもらいました）

## 民児協と福まちの懇談会

3月17日午後、地区会館において菊水地区民生・児童

委員協議会の役員と福まち幹部との懇談会が行われました。民児協からは会長、副会長、幹事、会計の各役員が、福まちからは実行委員長と事務局長それに、よつクロ編集部員が出席しました。

地域の高齢化が進む中で、福祉推進の中核ともいえるべき民生・児童委員活動と福まち活動との連携の強化と、情報の共有化を目指して行われました。

昨年菊水地区で行われた「救急医療キット」の配布を通じて、両団体の連携は過去にない連携の実をあげてきました。しかし、「救急医療キット」配布の次に控えている、高齢者や障がい者などに対する見守り活動や個別的な生活支援活動にステージアップするためには、より一層の連携が必要になるとの認識のもとに懇談が行われました。



3.11 の東日本大震災の後でもあり、札幌での災害を予測した「要援護者対策」のプランの再構築にも、この懇談会開催の意義が試されてくることになるでしょう。

最初は硬い雰囲気でしたが、お互いに顔見知りであることから、終始和やかな雰囲気でき懇談できました。

最初は硬い雰囲気でしたが、お互いに顔見知りであることから、終始和やかな雰囲気でき懇談できました。

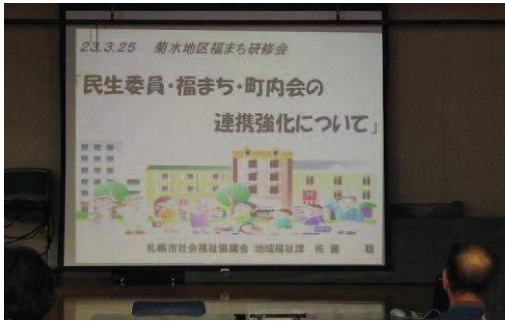
## 福まち研修会開催

3月25日(金)午後1時菊水地区会館2階大集会室で福まち推進委員会主催による「福まち研修会」が開催されました。今回は「民生委員・福まち・町内会の連携強化について」とのテーマで、札幌市社会福祉協議会地域福祉課の佐藤聡氏が講演を行いました。

会場には町内会役員、民生・児童委員、第二包括支援センター職員、介護予防センター職員など地域の福祉を担っている関係者が70人ほど集まり、プロジェクターで映し出される画面を見たり、資料を手にして







熱心に講師の軽妙な話に耳を傾けていました。

講演の内容は、まず高齢化、核家族化、地域の間関係の希薄化などが引き起こすいろいろな福祉問題をあげられました。平成19年に札幌市で起こった孤立死は1,976人に達しています。認知症による

徘徊の増加や高齢者虐待などの福祉課題も見過ごすことはできません。

このような社会問題に対応するために、平成7年に「福祉のまち推進センター(福まち)」が各地につくられました。この福まちの目的や目標について語られ、次に地区社協と福まちの関係や、単位町内会に設置を求められている「福祉推進委員会」の組織構成と活動の内容に触れられました。



次に、西区八軒中央地区における福まち活動の実態の紹介がありました。他地区における活動内容は、自分たちの活動の座標を確認するために大変参考になるものでした。最後に、これからの福まち活動に向けていくつかの指針を話されました。

- ① 地区の目指す福祉のまちづくりについて、定期的に話し合う場を持つこと
- ② 福まち活動の運営会議、事務局会議、福祉推進委員会議などの

### 定例化と幅広い参加機会の提供

### ③ 他の福まち、社協の積極的な活用

### ④ 事例や事業を通じた(地区社協構成団体の)相互理解の促進

まとめとして、自分が寝たきりになったり、障がいを持ったとき、この地域に住んでいてよかったと思えるような、支えあいの環境が確立された地域社会をつくるため、福祉に関係する団体・個人がいかに連携を密にし協力し合っていくことが肝心であると述べられ、約1時間の講演を終えました。



## ふれあい・いきいきサロンの動向

札幌市社協が推進している「ふれあい・いきいきサロン事業」は現在全市で約500か所に及んでいます。今まで菊水地区には平成20年9月から活動を続けている「お茶の間サロン・チャオ」一か所しかなく、福まちとしてもこれに続くサロンの誕生を心待ちしていました。このたび「いきいきサロン P・G(ピープル・ガーデン)」が誕生しました。



1、サロン名 「いきいきサロン P・G」(People-Garden)

2、代表者名 横浜 俊一

3、開催日時 毎月第2及び第4火曜日(月2回)  
午前10～12時 12・1月は月1回

4、会場名・場所 菊水6条4丁目 東町福社会館内

5、参加対象 菊水南地区の60歳以上の方

6、参加方法 事前に連絡(申し込み)が必要



7、参加料 無料

8、連絡先 担当者813-8171(佐藤)

### 9、サロンの狙いと運営方針

体力の衰えを意識し始めた高齢者が自然発生的に集い、ウォーキングやパークゴルフなど、健康

指向を軸に輪を広げて出来たサロンです。4～11月はサイクリングロードや豊平川河畔のウォーキングやパークゴルフなど外での活動が主体になります。12月～3月は室内での談話が主体の活動になります。

雪が解けると、冬眠していた木々は一齐に芽を吹き出し人間社会にも新しい動きを見せます。菊水まちづくりセンターの所長が変わりましたし、白石区社会福祉協議会の事務職員にも人事の異動がありましたので、お知らせします。

# 送る人・迎える人

## 前まちづくりセンター所長 渋井 敏紀

早いもので、あっという間に2年が過ぎてしまいました。この間、地域の皆様には温かく励ましたいただき、大変ありがとうございました。

私が着任してからの活動では、独居高齢者への救急医療情報キットの配布がありました。また各種団体が独自事業としてそれぞれたくさんの地域活動を行っていただいております。私が地域活動に接するのは初めてでしたが、こんなに地域の方々が一糸懸命に活動されていることを知り、本当に頭が下がる思いです。地域の皆様の活動にただただ感謝感謝の思いでいっぱいです。

今回の異動で菊水を去ることになりますが、皆様のご健康と地域の益々のご発展を願って感謝とお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



## 新まちづくりセンター所長 諏佐 寿彦

4月1日付で菊水まちづくりセンターの所長として着任いたしました諏佐と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

地域のまちづくりの仕事は初めてであります、一日でも早く仕事を覚え、地域の皆様と札幌市との良きパイプ役になれるよう、微力ではありますが全力で取り組んでまいりたいと考えております。

皆様には、様々な場面においてお世話になると思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

まちづくりセンターにもお気軽に遊びにきてください。お待ちしております。



## 前白石区社協職員 武山 周一郎

この度5年間お世話になりました白石区を離れ東区に異動することとなりました。菊水地区の皆様には様々なことを教えて頂き、また地域にお伺いした際にはいつも温かい言葉をかけていたことに本当に感謝しております。社協職員として地域にどれだけの貢献ができたかを考えると複雑な心境ではございますが、今後とも地域福祉の推進のために精一杯取り組んで参ります。

白石区社協は4月から新しい職員も入り新たな体制でスタートいたします。どうぞこれからもご協力をいただきますようお願い申し上げます。



## 新白石区社協職員 竹内 哲也

このたび、4月1日付の異動で、南区から着任しました。

菊水地区のみなさんが築き上げてこられました「福祉のまち推進センター活動」を中心とした地域福祉活動に、一日も早くお役に立てるよう日々業務に努めて参りたいと思っております。

地域のみなさんのご指導等、よろしくお願いいたします。



注 白石社協の武山さんは「高齢者ふれあい交流会」などで、菊子さんの妹周子さんを好演しました。

## 編集後記

3.11の東日本大震災でお亡くなりになった方には心からのお悔やみを申し上げ、被災者の方々にはお見舞いを申し上げます。あまりの災害の大きさに言葉もありませんが、一日も早い復興を念じております。私たちに与えられた尊い教訓を胸に、自らの地域の防災対策の万全に努めたいと思っています。  
(枝元編集員)